

2019 年度の教育活動等に対する学校評価書

2020 年 3 月 18 日
学校法人聖隷学園
聖隷クリストファー大学附属
クリストファーこども園
総園長 太田 雅子
学校関係者評価委員

1. 園目標

<愛>	神様と周りの人に愛されていることが分かり、自分を大切にする気持ちをもつ。
<思いやり>	様々な人々との関わりを通して、思いやりの気持ちを育み共に生きる喜びを知る。
<たくましさ>	自然の中で思いきり遊び、感性やたくましい心と体を育む。
<いのち>	食に関わる体験を積み、いのちがつながりあい、支えられていることに感謝する。
<表現力>	自ら様々なことに取り組み、考えたり表現する力を身につける。
<自立>	生活に必要なことが分かり、自分から身に付けようとする。

2. 2019 年度の重点課題（事業計画）

①定時退勤を目指して、タイムマネジメントができるように支援する。

ーICT の活用、専任職員の記録等の作業環境の充実 ー個人作業スペース、職員休憩場所の確保

②園庭の再構成（3 年計画の 2 年目）を実行へと移す。

③専門性や得意分野に合わせて各リーダー、教諭、クラスリーダー補助（準職員）、保育補助スタッフ（無資格）の業務・役割の明確化を行う。

ーバス添乗スタッフ、英語活動アシスタントの配置 ー保育補助スタッフの充実（記録スタッフ）

④異文化・異言語プログラムの見直しと、適切な講師の配置を行う。

ー3 歳児対象の課内英語活動の実施 ー4・5 歳児対象の課内・課外イングリッシュの活動内容の見直し

ー小学校接続を意識したグローバル教育の検討

⑤子育て支援環境の充実と研修の実施

⑥園で定めた研修テーマに係る研修及びキャリアアップに係る自主的な研修の受講を支援する。

ー園で定めるテーマ（保育環境）に関する園内研修を実施する ーキャリアアップに係る自主的な研修の受講の支援（費用、勤怠の調整等）

⑦3 歳児（1 号認定児）の定員確保

ー園だよりとホームページをより読みやすいものにし、園の保育内容の理解、保護者協力、入園へとつなげる

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

(※評価は、○…目標どおり達成できた、△…十分に達成できていない・次年度の課題である、で表している。)

重点課題	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
教育・保育方針	[保育補助者の配置と役割分担] - 専門性や得意分野に合わせて各リーダー、教諭、クラスリーダー補助（準職員）、保育補助スタッフ（無資格）の業務・役割の明確化を行う。 - バス添乗スタッフ、英語活動アシスタントの配置と保育補助スタッフの充実（記録スタッフ）を行う。	○	- 保育補助スタッフは事務、食事、午睡場面活躍した。 - 今年から新たに始めた English エクストラ（課外イングリッシュ）もアシスタントのおかげで場所の確保と安全、十分なサポートがあり、子どもたちが少人数で親しむことができた。 - バスのコースが増えたが添乗スタッフが見つからず担任が乗ることになった。来年は整えたい。 - アシスタントも含め、余裕を持った人数で保育ができ、一人ひとりの子どもにじっくり寄り添いながら保育がすすめられた。記録のための時間を生み出すこともできた。	○	- スタッフ全体の人数が増え、様々な立場で関わる人たちが思いを一つにして、子どもたちの成長に寄り添うためには、かなり意識して取り組むことが必要かと思われます。こども園が何を大切にして保育をしているのかということの共有が大切ですね。 - 子どももランチの先生、イングリッシュの先生、とそれぞれの場面で担当してくれる先生の存在や特別なやり取りを楽しんでいました。
	[学びのための機会を設ける（自主研修）] 月一回程度の聖書研究会を開催する	○	- 自発的（有志）に聖書研究や礼拝に出席する職員が増加している。しかしながら、キリスト教行事や「祈り」に関しての学びがさらに必要であると考えます。 - 希望者だけの会だったが、自分たちの学びたいことが学べ充実した時間となった。 - 総園長の自宅を開放していただき、食事をとりながらの会だったため、良いコミュニケーションの場となった。 - もう少し回数ができるとよかったが、行事や牧師の都合等もあり、月1回は難しかった。内容はとても良く、雰囲気も良い学びの時間だった。	○	- キリスト者ではない保育スタッフも含め、キリスト教保育を大切に思い、聖書から学ぼうという努力に敬意を表します。 - クリスチャン以外の先生方がいつも子ども達にも分かりやすく清書のお話をして下さり、よく勉強されていることに感心しています。 - 礼拝やキリスト教行事を通して、子ども達もキリスト教の教えを感じている、学んでいると感じます。

重点課題	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
特色ある保育の展開	[園庭の再構成（3年計画の2年目）を実行へと移す] ・保育者間の共通理解を図るための研修を行い、具体的な実施計画を立て、園庭の整備をする。 ・保護者への研修を2回行い共通理解のもと協力を得る。また、整備のための作業を開始する。（10月・3月）	○	・園庭整備に向けて、研修会を開催し、講師の指導のもとに作業を進めることができた。保護者がこれらのプロジェクトに積極的に参加している。 ・保護者とのワークショップ（作業）では職員と保護者とが一体となり、園庭作りを行うことができた。来年度はより多くの保護者をどのように巻き込んでいくかが、課題である。 ・園庭作りを通して「子どもが自ら育つ環境作り」について職員間で何度も話し合うことができた。これが園の目指す方向への共通理解に繋がるのではないかと思います。 ・多くの保護者が協力して下さり、楽しみながら一緒に作業ができたことで、その後の園庭の様子も気にかけて下さる方も多くいた。また、子どもたちにとっても、保護者が作ってくれたことで、より愛着を持って、遊具で遊ぶことができています。	○	・子どもたちが豊かに育つために環境はとても大切な要素です。毎年、着々と園庭などの整備が進められていることはすばらしいと感じます。そこで遊ぶ子どもたち、過ごす子どもたち、大人たちとの交流の場面を直接見ることができず申し訳ありません。きっと子どもたちいきいきした表情が一番そのことを評価してくれるのではないかと思います。 ・保護者も一緒に取り組んだ園庭整備は、とても有意義な活動だったと思います。特に父親が関わることができた点が良かったです。 ・年々変化していく園庭は保護者としても魅力です。先生方や保護者によって作られた遊具に愛着をもっている様子が伝わっています。
	[言語や思考力を高める保育実践を行う] ・探求型保育の実施に向けての職員の学びを行い、実践に移す。 ・メタ認知の育ちのための方法を探り、実践する。	△	・昨年の探求活動の経験より、自ら探究を続ける年長児の姿があった。探究を支える環境についてはまだ十分とは言えないが、少しずつ変わってきている。今後も保育者の問いや必要な足場作りなど、経験と同時に保育者の関わりについても学んでいきたい。 ・子どもの興味関心から、遊びを引き出し、深めていくため、保育者がどんな援助をしていったらよいか、探求型保育を目指し、保育しているか、実際の職員の学びの時間があると、より自信をもって保育ができるのではないかと思います。	○	・子どもの主体性を大切にするための取り組みについて、大人が先回りして具体的なイメージを持ちすぎると、子どもたち本来の主体性を引き出しにくいということになりがちです。子どもたち一人ひとりの存在を喜んであげること、見守られているという安心感を伝えること、さまざまな現れを受けとめてあげること、その子なりにその子のタイミングで主体性を発揮するような気がします。

重点課題	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
特色ある保育の展開	[思考力の芽生えの時期を意識して保育実践を行う] ・創造的な思考や主体的な生活態度の基礎を養うこと（計画）に留意して保育を行う。 ・探究型、主体的保育を3歳から実践するために具体的な方策をさぐる。	○	・各保育者が意識をして、環境構成、活動の計画や働きかけがなされている。 ・0歳児から3歳児からの連続性が見えないが、ラーニングストーリーを続けていくことで繋がってくるのではないかと思います。 ・ラーニングストーリーに苦戦している職員もいるためエピソード記録なども取り入れ、個々の探究にフォーカスしていきたい。	○	・子どもたち個々の感性、経験、環境などを総合的に捉えつつ、想像力をはたかせることで「ストーリー」が見えてくるような気がします。想像力をはたかせるところで、保育者自身の感性、経験、環境の影響もあるだろうと思います。
	[イングリッシュ活動の充実] ・4歳児クラスに課内イングリッシュを取り入れ、少人数グループで異文化・異言語に触れる活動を実施する。 ・3歳児クラス希望者を対象とした課外イングリッシュを実施する。	○	・課内、課外において、異言語・異文化活動を設定している。課外においても参加者の割合が高く、こうした積み重ねの中で、子どもたちが多様な人々・言語と触れ合うことに関心を持ち始めている。 ・今年度の少人数イングリッシュは課内、課外共に充実していた。子どもたちが自然な姿で英語や異文化に親しむ様子が見られた。 ・3歳児課外クラスも実験的に行って見たが、喜んで参加する姿が見られた。3歳児については保護者からの希望・期待も高いため、次年度は3歳児課外も本格的に取り入れたい。	○	・国際的感覚、異文化への適応についても、人的環境と体験から、子どもたち自身が吸収していくのだろうと思います。保育者が感じられる成果だけでなく、子どもたちの将来に生かされていくことだろうと思います。 ・課内・課外とも、子ども達は遊びの中で楽しく英語に触れることができていました。ランチでも他国の文化に触れ、とても刺激を受けていました。 ・課内・課外イングリッシュに参加したことにより、自宅でも英単語を使ったり、異言語・異文化に興味・関心がわいていると感じる。

重点課題	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
保育環境の充実	[0～2歳児クラスの保育環境（育ちや学びを支える）について研修し、実行に移す] - 大学教員によるアクションリサーチを実施する。 - 各保育者が園内研修から気づいたことをもとに、保育室の環境を改善させ充実させる。	○	2歳児クラスを中心に、細田先生のご指導のもと、ビデオ研修を実施した。子どもの姿から環境構成を工夫することにより、かみつきなどが減り、子どもたちの情緒が安定してきている。学びに向けての環境構成や働きかけについて、さらに研修を行い、実践へとつなげたい。 - 一時的な改善にとどまらず子どもたちの発達や関心、季節などに合わせて少しずつ作り変えることができるようになってきた。今後は各学年を繋げ、連続性と一貫性のある園全体の改善へと取り組みたい。 - 園全体で学ぶ時間が少なかったが、担任と大学教員と具体的に環境構成のアドバイスをいただき話し合える時間が持てた。	○	- ビデオを活用したふり返りは、関わった保育者本人のふり返りのみでなく、保育者同士の共通理解を深めるためには有効なところもあるかと思っています。 - 逆に、保育者の捉え方の違いを受入合う、あるいはゆるし合うことも意識したいと思っています。
子育て支援・保護者との連携	[ラーニング・ストーリーを活用する] 個々の子どもたちのラーニング・ストーリーを充実させ、保護者懇談会の資料として活用する。保護者に対してラーニング・ストーリーをフィードバックしてもらうように働きかけ、保護者からのコメントを参考にしながら次の保育の手立てを考える。	○	- ラーニング・ストーリーを用いて、子どもの成長の姿を保護者と共有することができるようになってきている。保育者の子どもを捉える視点が明確になって来ている。 - ラーニング・ストーリーの作成に時間を多く要するためエピソード記録なども用いて、見える化し、育ちの姿や喜びなどを共有していきたい。（保護者には書く人、読むだけの人と差があった） - 次年度はオープン保育デーの在り方を再検討し、それぞれの行事も上手く活かして、子どもの日頃の様子を伝えていきたい。 - 保護者からのフィードバックはだいぶ定着した。家庭での姿、好きなこと等、保育へのヒントもあり、また保護者との会話も広がった。	○	「ラーニング・ストーリー」という言葉が専門用語として感じられてしまうような気がする。保護者もさまざまな人がいると思うが、普通のことばで説明できると共有しやすくなるのではないだろうか。 - ラーニング・ストーリーを書くことで親としても子どもの成長を実感することができました。子どもの家での言動が園での出来事に繋がっていたことを知り、子どもの心の動きに気付くこともありました。また、両親が別々に書くことでお互いの異なる視点に気付いたことも新鮮でした。卒園後も何度も子どもが読んでほしいと持ってきます。

重点課題	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
子育て支援・保護者との連携	[具体的なニーズを把握して、必要に応じたプログラムを立て実行する] 園保護者と合同で、地域の子育て家庭も参加できる講演会（自ら育つ環境）を開催する。	△	親子を繋げるようなプログラム（クッキング・ヨガ・人形劇・ベビーマッサージなど）を取り入れることができた。地域の子育て家庭については十分ではなく、入園希望者が主となってしまった。今後も園を拓き、地域のニーズに合った内容を検討していきたい。（会場の限界もある）	○	- 地域にも支援をしたい、支援が必要な子どもたち親たちがいると思われるが、受け止める園だけではアプローチするにも、課題に寄り添うにも限界がある。地域での連携、地域づくりも視野にいたい。 0～2歳の中でも特に小さい子は自分たちの都合のよい時間に短くても毎日参加できる子育てひろばのような場所の方がニーズがあるように思います。
入園児募集	[園の保育内容についてわかりやすく発信する] - わかりやすい園だよりの作成を行う。 - ホームページの拡充。担当者を設ける（手当て）	△	- ホームページに関しては、クリストファーこども園に関しての理解が深まる内容へと改善をする必要がある。 - 園だよりの内容については年々質が上がってきているのではないかと思う。手にとって見たい人と電子化した方が読みやすい人がいる。ペーパーレスなどの効率性や働き方改革、保護者の嗜好など、もう少し細かく分析した上で必要なものを残すと良いと思う。 - ホームページへのブログのアップが今年は少なかった。	△	- ホームページについては、保育者からの発信に併せて、経営方針からの視点も見逃せないなので、双方の立場で良くコミュニケーションをとることが大切だと感じます。園だよりは、保護者との連携・協力のための大切なツールの一つですね。 - 園だよりは毎月楽しみにしています。各学年の成長の様子や興味・関心を知ることができ、看護師による記事も参考になります。また、総園長や仲先生の文章を通じて、キリスト教の理解を深める機会となっています。
	[国際バカロレア・イマージョン教育についての理解を深める] 国際バカロレア（PYP）に関する研修を、大学・小学校教員と一緒に受ける。	○	- 園長・副園長が IB 協会主催のワークショップに参加し、PYP に関して理解を深めた。IB の理念や方法論と本園の教育内容の共通点をまずは明確にする。 - PYP についてはこども園単独で判断できないため、聖隷学園全体で将来について話し合う必要がある。	○	新しい時代の教育体制へのチャレンジだと思うので、先駆的な実践として発展していくことを期待したいと思います。

重点課題	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
安全・危機管理	[危機管理体制の見直しを図る] ・昨年に引き続き、職員・保護者対象の実践的な防災講座（訓練）を開催する。 ・危機管理体制（プール事故・不審者対応等）の適宜見直しと訓練の実施。 ・降園時の駐車場の安全指導を徹底する。・ICTの導入による入口開閉システム作り	○	・おおむね達成できたが、iPadの打刻管理までは至らなかった。（駐車場の混み具合なども考えると踏み切れなかったため）次年度取り入れたい。 ・防災講座は毎年1回定着し、保護者の中でも災害について考える日だという意識が定着している。 ・日頃から危機管理体制を整え、職員間でも意識していくことの大切さを呼びかけていった。	○	・災害時、特に大規模災害時のことを視野に入れるならば、園としてどのように対応するのかを検討して下さるとよいと思います。 - 地域防災上の役割、福祉施設としての側面からはBCPについても検討課題です。 ・年1回の防災講座、防災訓練を通して、防災意識を家族で再確認する機会となっています。
スタッフの資質向上・連携	[各職員のキャリアアップのための、自発的な研修を促す] ・キャリアアップに係る自主的な研修の受講の支援をする。（費用、勤怠の調整等）	○	・職員が順番に行ける限り、調整している。これまでは県外のもの、3日間拘束されるなどの理由で全ての職員が参加できなかったが、今年から少しずつ改善させているため次年度以降も引き続き機会を作っていく。 ・研修のお知らせをして、研修参加が偏ることのないよう全体に周知した。また、夏の研修をはじめ、自主研修の参加も促した。	○	・子どもたちの命、生活、人生に寄り添うことを考えるときに、保育者が自分磨きをすることは大切です。専門分野のみならず、さまざまな体験を意識的に取り入れるために、個々が研修・啓発の目標をもてるといいですね。
	[環境（室内・園庭）についての園内研修を定期的実施する] ・園で定めるテーマ（保育環境）に関する園内研修を実施する	○	・聖隷クリストファー大学教員（細田先生）、井上寿先生による研修を実施し、子どもの成長・発達と環境について理解を深め、実践に結びつけることができている。 ・園内研修は実施できた。継続して、職員間で話し合いができるとさらに良い。	○	・大学の専門分野からの助言や研修に加え、小学校、中学校、高校と子供たちの成長に添う実践からフィードバックしてもらえる可能性があることは、クリストファーの強みだと思います。 ・職員の皆さんの高い意識や広く深い知識に、親として多くの気づきを与えていただいています。

重点課題	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
スタッフの資質向上・連携	[園児や保護者との適切な関わりについて共通理解を図る] - 具体的な場面でのかかわり方に関するガイドラインを作成する。 - 保護者との信頼関係、話の聞き方の研修を実施する。	○	- 聖隷学園及びこども園独自のガイドラインを作成した。さらに、これに基づいた研修を行う予定（1月）である。 - 年度末研修で具体的な関わりについて研修し、マニュアル化した。 - 新型コロナウイルス感染症対策による緊急対応や予定変更など、保護者への十分な説明と理解を図ることや信頼関係がいかにかよく分かった。	△	- 基本的なところ・具体的などころではガイドラインは有効だと思います。保育者（大人）としての子どもの人権への感覚を持つことは聖書の学びとも通じると思います。 - 園の方針や決定が個々の保護者のニーズに一致しない時（子どもの側の福祉や社会的要請を優先させた時など）、保護者に対してその理由を丁寧に伝える大切さ、難しさを感じました。
	[評価内容・評価方法に向けての評価者研修] 現行の評価内容・項目等を再度見直し、評価者訓練研修を受ける。	△	今後、評価者の訓練が必要である。	○	評価項目、評価基準などにより、期待とは違った効果がでることもあります。慎重に考えておられるところは○かも知れません。
園経営全体の向上	[保育準備・事務的作業の環境整備、ICT活用] - 各クラスにPCを一台ずつ設置し、事務作業や記録等を効率的に行う。 - ノンコンタクトタイムの確立を図り、落ちついて子どもの学びや保育についての振り返りを行うための時間を設ける	△	- 事務作業や記録等を効率に行うためのアプリ（ナノティ）を導入した。 - 各クラスのPC配置、ラーニングシェルター（記録部屋）の改造などに取り組んだ。今後もより効率性がアップする環境作りを行っていく。 - PCの台数が増えたことで、各々時間を見つけ、作業することができるようになった。 - 以上児の先生はノンコンタクトタイムがだいぶ定着している。未満児はアシスタントがいることで交代で出やすくなっている。	○	- 直接子どもたちに向き合う以外の業務の効率化についていろいろ試行をされているのはよいと思います。 - 場所と時間だけでなく、子ども（他者）のことを考え（評価して）実践することを離れ、自分と向き合う時間（神様と向き合う時間）も大切だと思います。 - 親である私たちも子ども達とずっと一緒に過ごしていると、そのあふれるパワーに圧倒され、余裕を失います。先生方によりよい保育のためにノンコンタクトタイムは必要だと思います。

重点 課題	具体的な取り組み		自己評価		学校関係者評価委員会
		評価	こども園としての反省と改善策	評価	意見
園 経 営 全 体 の 向 上	[十分な休息、仕事と育児のバランスが取れる職場環境を作る] ・全職員が、休息を確実に取れるようにする。 ・休憩室（ユニットハウス）を設置し、心身のリフレッシュを図る ・休憩時間の充実を図る。（レクリエーション） ・年休取得や残業を減らすために、段取りを工夫する ・年休を取るため、代替保育者を配置する	△	・ユニットハウスの準備はできていたが、諸々の事情により実践には至らなかった。そのため、臨時休憩室を作る。休憩をとるための時間作りについては未満児クラスは定着しつつある。以上児クラスはもう少し工夫が必要である。 ・年休取得（5日間）については達成できたが、代替保育者の配置については課題が残る。一人ひとりの職員の意識の高さも必要となるため、職員の働き方改革への共通意識を高めていきたいと思う。 ・代替保育者を配置することで、計画的に年休を取ることができるようになった。 ・休憩時間をとることが定着してきた。	△	・ストレスフルな時代です、休息をとるための環境的な整備（場所と時間）について検討されていることは大切だと思います。 人間関係においてストレスが大きいことを考えると、せめて保育者同士が、認め合い、ゆるし合える雰囲気共有できることが一番の慰めと励ましになるように思います。